

松田高明君を悼む

NPO シンクタンク京都自然史研究所

西村 進

松田高明君の平成 13 年 9 月 13 日の突然の訃報に非常に驚かされました。9 月 18 日お葬式には、方々から、多くの同輩、後輩らが集まり、見送りました。

自分より若い方を送るのは非常に辛いことです。私がフィッション・トラック手法を日本で初めて大阪府立大学で始め、本格的に実験室を作ったのが京都大学教養部でありました。ジルコンを対象としたのは、世界で初めてでした。松田君と一緒に実験に加わり、年代測定を始めました。その後、彼は姫路工業大学に移り、私も京都大学理学部に移り、お互いに実験室を作りなおし、フィッション・トラックの研究、年代測定を続けました。

松田君はフィッション・トラック研究会を立ち上げたときからの会員であります。十年間お世話して、彼らが中心として研究会が続けられています。

彼は島根大学を卒業して、昭和 49 年 4 月京都大学大学院修士課程に入学、昭和 51 年 3 月に修士課程終了、昭和 54 年 3 月博士後期課程を終了されました。そのあと姫路工業大学に職を得て、姫路に移転されました。島根大学で地質学を学び、特に山陰の多量の凝灰岩を噴出した火成作用の研究をしていたので、彼は野外調査に強い数少ないフィッション・トラックの研究者であります。年代測定を自分の本来の研究に活かしていました。一方、西村と兵庫県立工業技術センターの赤松 信とでなされていた兵庫県依頼の温泉調査に地質調査で助けていただいたことが多かった。

彼は背が高く、山歩きに強かった。山田隆二の博士課程の研究サンプリングに黒部の関電の宿舎に泊まり、松田君と長谷部徳子嬢と四人で剣岳に登った時のことを今でも思い出します。

研究面では、彼と神戸大学乙藤洋一郎とでなされた日本海のテクトニクスの研究は見事なできでありました。

最近、熊本大学に多くの志を一つにする研究者が集まり、彼もその強力な一員として、これからの十年の成果を非常に楽しみにしていましたのに、また、南極の成果もおさめないままに、急に亡くなられました。残念で仕方がありません。

合掌